

MONTHLY

コロンパス

ビジネスの新大陸を発見!!

11

2024
NOV.
770円

2023年の大学入学者数は
62万人、18年後には
41万人に、倒産大学も!!

志願者数減で
定員割れ大学が6割!!
有力大と地方小規模大の
格差がますます拡大!!

文部科学省が基金3002億円を創設し
「大学・高専機能強化支援事業」をスタート
理・工・農の人材育成で大学再生、
産業のボトムアップをはかる!?

HotAngle 1

地域経済の中核戦力

地方大学 最大活用

HotAngle 2 水素エネルギー研究会

清水建設が産総研と共同で
水素吸蔵合金を取り入れた
「Hydro Q-BiC」で
建物や地域の
カーボンニュートラルを
実現

原発ゴミの処理と地域振興に関する研究会

研究者と一般人のギャップを埋めるために
地層処分に関する「語彙基盤」を公表!!

ゲスト 佐々木隆之・京都大学大学院 工学研究科 原子核工学専攻 教授

多摩の

TAMA
NO
CHIKARA

カ

東京都商工会連合会×東京多摩の地域金融機関×月刊『コロンブス』

このコーナーでは、月刊『コロンブス』が東京都商工会連合会や地域金融機関とタッグを組み、東京多摩地域の産業栽培力を深掘りしていく。今号では、地域で栽培されている「江戸東京野菜」や「T化」を推進して未来の学校つくりに挑戦する小平市の有望企業、西武信用金庫のビジネスフェアや多摩信用金庫の次世代経営者講座にスポットを当てた。

「江戸東京野菜」で伝統の滋味と物語を堪能しよう!!

前号につき、東京都商工会連合会 多摩観光推進協議会主催の第3回「多摩の地域食材を使った特別メニュー」の試食及び情報交換会と「観光セミナー」に集結した東京多摩各地の魅力的な食材を紹介したい。今号で取り上げるのは「江戸東京野菜」。

さっそく、その魅力の発信と生産者育成に力を注ぐJA東京中央会 江戸東京野菜推進担当の川並三也氏に話を聞いてみた。

飢饉や嫁入りなどの物語
多摩地域の魅力ある野菜たち

「江戸東京野菜」とは、江戸期から昭和中期頃まで多摩地域を含めた現在の東京都内のエリアで栽培されていた在来種、ま



JA東京中央会 都市農業支援部 江戸東京野菜推進担当の川並三也氏

たは当時の栽培法で今なお作られている野菜の総称。JA東京中央会が2011年に定義したもので、大半が農家の自家採取や近隣の種苗商の種子を基に生産されている。生育力が強く形も揃ったF1種に比べると形は不揃いで、病気や気候変化に弱く、栽培が難しいという弱点があるが、在来の栽培方法で育成されるため、野菜の持つ本来のおいしさを感じることができるのが特徴だ。

その種類は50種を超える。一つひとつが個性的で「味や形だけでなく、背景にある伝統や物

語を感じてほしい」と川並三也氏は強調する。たとえば「のらぼう菜」は、もともと江戸時代に菜種油を採取するための野菜として広く栽培されていたアブラナ科の一種。天明や天保の深刻な飢饉のときに土地の代官が12の村に命じて食用として生産量を増やし、若芽を摘んで食べるようになったといわれている。甘みが強く苦味が少ないうえ、柔らかいのが特徴で、東京多摩地域ではあきる野市五日市周辺で栽培がはじまったとされ、いまでも同地区を中心に生産が盛んだ。また、「おいねのつる芋」

は檜原村に伝わる伝統のじゃがいも。おいねさんという人が山梨から檜原村に嫁いできたときに良い種を持ってきて栽培をはじめたと伝えられている。つる芋の「つる」は蔓ではなく、おいねさんの出身地である山梨県都留市がその由来だという。サイズは小さいが味は濃く、旨み強いのが特徴だ。

多摩の風土ならではの味をどう次世代につなぐか

こうした物語と特徴を持つ東京多摩地域の江戸東京野菜だが、「風土に根ざしているのは魅力

だが、ほかの土地で広く栽培できないのは悩ましいところもある」と川並氏は打ち明ける。たとえば、のらぼう菜の種は産地のJAなどで手に入れることができるが、これを気候風土が異なる都心23区内などで栽培しても同じ味には育たない。おいねのつる芋も「崖かと思われほど急な斜面で栽培されているが、これを平地で栽培すると味がボケ、普通のじゃがいもと

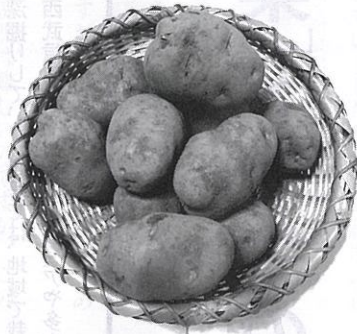
東京都農業協同組合中央会
東京都立川市柴崎町3-5-25
JA東京第1ビル3F・4F

変わらない味と見た目になってしまふ」のだ。「厳しい環境で作られているため、近年では生産者が高齢化して作付けができなくなっている」と川並氏。もちろん、新規就農者の獲得には力を入れているが、「一度栽培をはじめても、機械が入れない急な斜面を登って手作業で草を取り除く作業などが大変で辞めてしまう人も多い」という。そのため、おいねのつる芋の生産量はかなり減ってきているという。

こうした状況を打開しようと、JA東京中央会では地域のイベントとの連携や出荷先の新規開拓などを柱にさまざまな対策を打ち出している。たとえば最近では、全国で生活雑貨や食品などを販売している企業の板橋区内の店舗や立川市の商業施設などでマルシェを開くなどの取り組みも。また、毎年「江戸東京野菜」都内高校生料理コンテスト」を行っている、若い世代への訴求もはかっている。地元根づき、在来の栽培方法を今に伝える江戸東京野菜。マルシェやイベントを通してぜひその個性的な味わいを継承していったほしいものだ。

檜原村に伝わる伝統のジャガイモ

「おいねのつる芋」



【代表的な取り扱いJA】

JA東京あきがわ <http://www.ja-akigawa.or.jp/>

江戸時代初期には西多摩地方でも

栽培されていたという「のらぼう菜」



【代表的な取り扱いJA】

JA東京あきがわ <http://www.ja-akigawa.or.jp/>

JA東京みらい <http://www.ja-tokyomirai.or.jp/>

JA東京むさし <http://www.jatm.or.jp/>

INFO-MATION

東京都商工会連合会

東京多摩地域と島しょ地域の全27商工会を取りまとめ、地域の事業者支援に全力投球!!

東京都全体の約3分の2の面積に420万人を擁する「東京多摩」は、首都圏から好アクセスでありながら豊かな自然に恵まれた地域だ。と同時に、東京都における5割以上の工業出荷額を誇るモノづくり集積地でもある。東京都商工会連合会はそんな東京多摩地域と小笠原島や三宅島などの島しょ部にある全27の商工会を取りまとめている。

多摩地域では現在、約3万社の企業が商工会員となっているが、そのほとんどは中小企業や小規模事業者。各地域の商工会は経営指導や研修、行政や金融機関との橋渡しなど、さまざまな施策を打ち出してその経営者たちを支えている。本コーナーでは引き続き、東京都商工会連合会や各商工会による事業者支援の施策、取り組みを紹介していく。

エリア	No.	商工会名(自治体名)
西多摩	1	あきる野商工会(檜原村、あきる野市)
	2	日の出町商工会(日の出町)
	3	羽村市商工会(羽村市)
	4	福生市商工会(福生市)
	5	瑞穂町商工会(瑞穂町)
南多摩	6	日野市商工会(日野市)
	7	稲城市商工会(稲城市)
北多摩	8	昭島市商工会(昭島市)
	9	武蔵村山市商工会(武蔵村山市)
	10	東大和市商工会(東大和市)
	11	国立市商工会(国立市)

エリア	No.	商工会名(自治体名)
北多摩	12	国分寺市商工会(国分寺市)
	13	小平商工会(小平市)
	14	東村山市商工会(東村山市)
	15	東久留米市商工会(東久留米市)
	16	清瀬商工会(清瀬市)
	17	西東京商工会(西東京市)
	18	小金井市商工会(小金井市)
	19	三鷹商工会(三鷹市)
	20	調布市商工会(調布市)
	21	狛江市商工会(狛江市)